

霜月俳句・短歌集

篠南川柳会

波風を立てぬ舵取り嫁の腕
妻の口少し夏バテしてほしい
年とれば思い出ばかり花盛り
うっかりと口が滑って出た本音
いくつもの幸せ呑んだ大津波
納豆の泡が知ってる気の長さ
重い物足腰にくる年もとる
夏瘦せは家の預金と民主党
うらかえし気付かずに着る年になり
ひさし雨なすびの気持も晴れるかな
体重計のぞき見られて跳び下りる

菊川俳句会

ほのかなる香に気付きけり金木屋
八十路すぎ初めて出向く敬老会
月あかり腹の底まで見透かされ
栗名月一人食卓賑わえず
爽やかに弾む話や同級会
楚々として花かんざしや萼の花
色褪せて外せぬままの秋簾
ゆつたりと虫の声聞き湯につかる

田中すみ子
田中 保美
木本 清子
谷口千代子
前田由紀子
芝田 憲蔵
田村 京子
松本もと
松本 安子
篠原みち子
射場ちずる

宮下 熊夫
長田 高明
中川 一喜
長尾 則夫
井関 禎美
井関 満子
小野山シマ子
長田千恵美

内海俳句会

波静か夜半の名月遊ばしむ
微酔に月の法楽連れ帰る
幼な日の夢に尾を振る猫じやらし
歳月の跽音聴きぬ落葉の譜
天籟の森羅万象秋至る

さわらび短歌会

耳元に来て話してくれる息子ありこれならわかる涙ぐみおり
明るくて楽しい歌会のひらかれて思い出しますあなたのことを
老斑の浮きたる腕をさすりつつ窓に見てある十六夜の月
歩き始めて日の浅き曾孫危ないと気は焦れども追いつけぬ足
我が家の灯あたたかそうに見えるのか窓の網戸に亀虫集まる
鍬先の減りしは生き来し証かと撫でつつ洗う夕光の中
みどり児の襁褓のとれてゆきし夏青葉のように意志の広がる
夜のバスに問題集を解く少女終点も近くそつと目を閉ず
いないのがうそみたいなの君の声の通らぬ歌会今日三回目
四万十川の流れに放つ唐網をたぐる漁師の腕のたしかさ
十月の山野もみじ化吾待ちぬもみじの手美くしもみじ大好き
桑の実で唇染めて叱られし前掛姿の母の顫ちくる
旗を振る人には必らず頭下げ顔を上げれば笑顔もありて
逝きてなほ信じがたかり歌会に君のゐるやうないつものこの席
白菜の定植を終え大根も芽生えてきようは栗の皮を剥く
葉腐れの土の中より早松茸坊主頭が三ツ四ツ出ており

村尾加都子
太田 信子
岩森十志子

田中久二恵
山本 豊子
前田 充
山崎 能子
澤近 正弘
岩村千代子
安村寿美子
水野美代子
吉田 信保
前田 昭夫
宮本ヨリコ
河上 明美
木本 清子
前田 知子
松本マス子
扇野八代生

はじめまして。赤ちゃん。

9月受付分(敬称略)

地区名	子の名	保護者
城辺甲	三好	お生
増田	羽田	昇平
中浦	岩崎	智司
御荘平城	赤崎	司司
広見	秋場	お生
広見	秋場	司司
御荘平城	山上	孝美
城辺甲	楠	直美
増田	大黒	啓示
船越	田中	幸三
大成川	攝津	豊義
上大	岡	暖

ご冥福をお祈りします。

9月受付分(敬称略)

地区名	亡くなった方	享年
御荘菊川	尾崎 亀太郎	85歳
小山	山門 廷	89歳
久良	中山 美一	77歳
船越	山本 美子	84歳
城辺乙	猪野 キミ	76歳
城辺乙	西河 孝幸	81歳
満倉	本多 春子	96歳
御荘長月	森林 昭	92歳
平 蓉	山口 盛	77歳
御荘平城	浅海 茂	88歳
中浦	松岡 郎	85歳
緑乙	小西 好	89歳
一本	松田 ノメ	99歳
満倉	倉下 美夫	88歳
岩水	田濱 夫	81歳
満倉	中尾 マツエ	92歳
中川	川谷 フクエ	87歳
城辺甲	山崎 さとし	81歳
御荘平城	梅田 政	35歳
垣内	大黒 たか	85歳
深浦	山下 明	78歳
久良	山田 久	86歳
御荘長月	山本 ひとし	81歳
御荘平城	河野 トシエ	93歳
中川	谷田 保	83歳
御荘平城	和田 としひろ	62歳

※上記情報は、広報誌掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。

